

IV. 大会に出場できるリーグ、監督、コーチ、選手

- 1 リーグ 当該年度の国際登録を所定の手続きにより完了したリーグ
- 2 指導者 ベンチ入りできる指導者は成人の監督1名、コーチ2名(内、1名はスコアラーを兼ねる)
(但し、上位大会ではその大会規則に従う)
- 3 選手及び登録
 - (1) 当該年度の国際登録を所定の手続きにより完了した選手(別表参照)
 - (2) 大会出場選手の登録は、各大会選手登録提出日の前日まで受け付ける
 - (3) 選手登録は、所定の登録用紙を使用しブロック長の承認を得て、大会本部に提出する
 - ① 春季大会・・・開幕式当日
 - ② 全日本、理事長旗争奪、マイナー大会(春季、秋季)・・・組み合わせ抽選会日
 - ③ インターミディエット連盟大会・・・組み合わせ抽選日
 - ④ 全国選抜及び東日本連盟大会、ティーボール大会・・・大会当日
 - (4) 背番号は1番から20番までの連番とする。
 - (5) 大会に出場できるリーグ、チーム、選手(別表参照)
 - (6) リーグ第1、第2、連合チームの編成(別表参照)

V. 競技規則

競技規則は大会運営上、順守すべき事項で各リーグ指導者は、この規則の順守を求められる。当連盟大会は協会公認リトルリーグ公認競技規則及びこの競技規則を適用する

1 大会組み合わせ抽選会

抽選会には出場リーグの監督又は監督代理が出席し大会注意事項をリーグに持ち帰り関係者に周知徹底する。ティーボール大会の抽選はブロック長が代行してを行う

2 服装

(1) 監督・コーチ(スラックス)

- ① a) 白色系・黒色系・紺色系・茶色系・灰色系・ベージュ色系を可とする
- b) 華美な色は不可
- c) 全体が単一色であること。(別色のライン等があるものは不可)
- d) チノパンは可
- e) デニムは可。ジーンズは不可
- f) ショートパンツは可。ショートパンツの色と着用時の靴下(ハイソックスや短いソックス両方可)の色は上記「a)項」の色に準ずるとする。色の組み合わせは自由
- g) 監督・コーチが同一の服装であること
- h) リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること
- i) 靴・ベルトの色は別色でも良い
(寒い時期はウインドブレイカーの着用を認める。但し、フード付きパーカー等は不可)

* シャツは現状の襟付き白色(白色のポロシャツ)とする

* インターミディエット部門は選手と同じユニフォームでも良い

* 裾のつぼまったズボンやラインの入ったズボン等は正規の服装とは認めない

- ② 帽子は選手と同じもの、又はリトルリーグワッペン付きの白色で統一したものを着用する
- ③ 監督、コーチを明示するリボンを胸に付ける(監督は赤、コーチは青)

(2) 選手

- ① 胸にリーグ名、左袖にリトルリーグワッペンを付した統一したユニフォームを着用する。尚、白色のアンダーシャツの着用は認めない
- ② ユニフォームはきちんと着用する。ズボンは「ストレートロングタイプ」の着用は不可
- ③ 連合チームの場合、ユニフォームは各リーグのものでも良いが背番号は1から20番の連番とする

(3) スポンサーワッペン

監督及びコーチ、選手は右袖にスポンサーワッペン(ガスト)を付ける

3 用具

- (1) 試合球はリトルリーグ公認球とする
- (2) バットは非木製バットで米国野球パフォーマンス基準を満たしていることを意味する米国野球のロゴ (USABat)が印刷されているものを使用する
- (3) 瑕疵、変形等があるバットの使用の可否は審判員が安全上の問題を最優先して判断する
- (4) 捕手は試合及び練習中もスロートガード付きマスク、ロングタイプのプロテクター、レガーズ、カップを着用しなければならない
- (5) 試合時、練習時を問わず胸部保護パットの着用を義務付ける
- (6) 選手、監督、コーチは金具の付いている靴、スパイクの使用はできない。(インターミディエイト部門は別途規定)
- (7) 打者、次打者、走者、ベースコーチ(選手)はヘルメット(フェースガード付も可)を着用する。状況により事前に許可を受ければ守備時も使用可。アゴ紐はすることが望ましい。練習時も着用する
- (8) グラウンド内に入るときは必ずヘルメットを着用する
- (9) バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホン等のベンチへの持ち込みを禁止する
- (10) 野球用手袋及びリストバンドの使用は認めるが派手なものは好ましくない。投手は打撃時のみ認める
- (11) グラブのひもは必要以上に長くしてはいけない
- (12) サングラスの使用は選手の守備に必要と審判員が判断した場合は使用を認める。監督、コーチの使用は原則禁止するが大会本部が認めたときは使用を許可する。但し、鏡面仕上げのものは不可。又帽子のつばに乘せることも禁止する

4 試合開始時間

- ①第1試合・・・9:00 第2試合・・・11:00 第3試合・・・13:30
(ティーボールは別途定める)
- ②開会式後の移動時間を考慮する
- ③天候状態等により開始及び終了時間の変更もある
- ④連続して試合を行うチームに対し食事時間等を十分考慮する
- ⑤リーグ代表者は試合開始時刻30分前までにグラウンドに到着し選手登録書及び試合記録を競技部員に提出する

5 試合の準備

- (1) 組み合わせ番号の若いチームを1塁側とする
- (2) ベンチ入り10分前にキャプテンはメンバー表を提出し競技委員立ち合いのもと攻守を決める
- (3) シートノックは後攻側から7分間(ティーボールは5分)行う。尚、状況により短縮、カットもある
- (4) ベンチ入り後、監督又はコーチはブルペンでの投球練習を見ているもよいが捕手を務めてはならない
- (5) リーグ戦の試合順序
 - ①3リーグの場合(数字は各組合せ枠ごとの順番を示す)
 - 第1試合・・・1:2
 - 第2試合・・・第1試合敗者:3
 - 第3試合・・・第1試合勝者:3
 - ②第1試合が引き分けの場合
 - 第2試合・・・1:3
 - 第3試合・・・2:3
- (6) 抽選番号の若いチームを1塁側とするがリーグ戦の場合は試合ごとに入れ替わる。2リーグの場合も同じ
- (7) メンバーチェック
大会初日に競技部員が監督、コーチの立会いのもと行う

6 審判員

- (1) 審判講習会を毎年受講して審判資格の更新をし、技術向上に努める
- (2) 大会期間中、審判部長の指示に従う
- (3) 第1試合開始1時間前までに担当グラウンドに集合する
- (4) その日は監督、コーチとしてベンチ入りすることはできない
- (5) 担当試合中のトラブルは全責任を持ってこれを処理する
- (6) 各リーグは試合出場に際し2名の審判員を派遣しなければならない。2リーグで2試合の場合は3名を

派遣する

(7) 連盟審判部長、ブロック審判部長は各グラウンドに責任審判員を配置する

7 リトルリーグ特有の規則

(1) 離塁

走者は投球が打者に達するか、打つまでは塁を離れてはならない。違反した場合はペナルティが課せられる。詳細は公認競技規則7.13参照

(2) ヘッドスライディング

進塁時のヘッドスライディングを禁止する。(インターミディエット部門はOK)違反した場合はアウトになりボールデッドとなる。ティーボールは進塁、帰塁時ともアウトになる

(3) ボーク

不正投球が発生した場合、走者を進塁させずボールを1つカウントする。又、投球しない場合もボールを宣告して投球数にカウントする。(インターミディエット部門は一般野球ルールと同じ)

(4) 投手の規則

①1日、又は1試合に投球できる球数

- ・ メジャー部門.....85球
- ・ マイナー部門.....75球(8歳選手は50球)
- ・ インターミディエット部門...11歳・12歳/85球、13歳/95球

*但し、投球制限数を超えてもその打者が出塁するかアウトになるまで投げ続けてもよい

②1試合に登板できる投手に制限はない

③20球以下の投球の場合、連続した試合に投げられるが1日の合計投球数は、メジャー85球 マイナー75球である

④休息日

- 66球以上/1日.....4日
- 51～65球/1日.....3日
- 36～50球/1日.....2日
- 21～35球/1日.....1日
- 20球以下.....無

但し、試合日程の都合上、休息日が満たされない場合は1試合空ければ投球できる

⑤当日の2試合目のチームが棄権、又は失格となった場合は1試合目に登板した投手は1試合空けなくとも登板できる(2試合目のメンバー表は交換しなくてもよい)

⑥41球以上投球した投手はその日は捕手を務めてはならない

⑦当該試合で4イニング以上捕手を務めた選手はその日は投手になれない

*4イニングはアウトの数ではなくイニング数である

(5) 延長戦

①トーナメント戦

メジャー部門...1イニング行い、8回よりタイブレーク

マイナー部門...延長戦は行わず、7回よりタイブレーク

インターミディエット部門...1イニング行い、9回よりタイブレーク

ティーボール部門...トーナメント戦は6回又は制限時間経過後、同点の場合は以後の回からタイブレークを行う。リーグ戦は6回又は制限時間経過後同点の場合は引き分け

②タイブレーク

攻撃は継続打順とし、無死2塁から始める。走者はその回の打順の一番遠い選手が入る。なおルール上、適格なピンチランナーやスペシャルピンチランナーをランナーとして起用できる
投手は前の回に登板していた投手が規定に従って引き続き投げる

③リーグ戦

6回が終了し同点の場合は引き分けとし延長戦は行わない・2リーグで2試合の場合、1試合目が同点で2試合目が6回を終わって同点の場合は延長戦を行う

(6) リーグ戦の順位決定

勝率>失点率>直接対戦の勝者>得点率>トス

①勝率・・・勝ち数÷試合数(引き分けは勝ち数、試合数に加算しない)

②失点率・・・総失点÷総守備イニング数

③得点率・・・総得点÷総攻撃イニング数

④トス・・・コイン等で行う(先攻が表、後攻が裏 球審が行う)

(勝率、失点率、得点率は小数点3位までとし4位以下は切り捨て)

(7) コールドゲーム

①メジャー大会・・・全試合 3回15点差、4回以降10点差

②マイナー大会・・・同上

③インターメディアエット大会・・・全試合 4回15点差、5回以降10点差

④ティーボール大会・・・適用しない

⑤降雨、日没、時間制限等で試合続行は不可能となった場合

- ・ 1回が終了していない場合は再試合とする。その場合、投球数を含むすべての記録はゼロとなる
- ・ 2回以降、試合続行が不可能となり勝敗が決められない場合はサスペンデッドゲームとなる。その場合すでに終了したイニングに関係なく正確に一時停止された状況から試合を再開しなければならない
- ・ サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までの投球が20球以下の投手は続きの試合に於いてその投手の投球数はゼロからカウントする
- ・ 中断までの投球数が21～40球であった場合は続きの試合に於いてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする
- ・ 41球以上投げた投手は規定の休息日が必要となる

(8) 試合時間制限

・ ティーボールは45分を過ぎて新しいイニングに入らない

・ リーグ戦で制限時間が経過して後攻チームが勝っているか、又は勝ち越し場合でもそのイニングが終了するまで行う

(9) タイム

①守備側のタイム

- ・ 監督、又はコーチは1イニングに1回(マイナーは2回)、投手のもとに行くことができる。2回目(マイナーは3回目)はその投手を交代させなければならない。又、1試合に2回(マイナーは3回)同一投手のもとに行くことができるが、3回目(マイナーは4回目)にはその投手を交代させなければならない(ファールラインを越えたら1回にカウントする)
- ・ 明らかにベンチからの指示で集まった場合は1回にカウントすることがある
- ・ 試合中、内野手がマウンドに集まることを認めるが状況によって認めない場合もある

②攻撃側のタイム

- ・ 選手に指示できる回数は1イニング1回である。守備側のタイム中に指示する場合は回数に数えないが守備側のタイムより長い時間は認めない。あまり長い場合は1回にカウントすることがある

(10) ベースコーチ

①ユニフォームを着てベンチ入りしている選手、監督、コーチが務めることができる

②監督、又はコーチ1名だけがベースコーチを務めることができる

③自チームの打者、走者のみに指示することができる

④1、3塁どちらでもよいが同一イニング中は移動できない

⑤コーチスボックスから出て打者、走者に指示した場合は、タイムを1回カウントすることがある

⑥走者の触塁に合わせて「セーフ」のジェスチャーやコールをしてはならない

⑦相手選手に対し威圧的な言動があった場合、1回目はベンチに戻すが2回目は監督の退場処分となる

(11) 次打者

①ネクストバッターズサークルは作らない。次打者はベンチの出入り口付近で待機する

②投手のウォームアップ時にバッターボックスに近づきタイミングを合わせる行為や素振りをしては

ならない

(12) 禁止行為

- ① 走者、ベースコーチが捕手のサインを見て打者に球種やコースを伝える行為を禁止する。又、紛らわしい言動を慎むこと。守備側の監督、コーチが守備側ベンチから出すサインを盗む行為も禁止する
- ② ネット裏、又は応援席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。悪質な場合は退場処分もある
- ③ ネットに向かっての打撃練習を禁止する
- ④ ベンチ前でのノック等の守備練習を禁止する
- ⑤ 捕手が立ち上がって胸、顔、腕等々を触って野手にサインを送る行為を禁止する

(13) スペシャルピンチランナー

スペシャルピンチランナーは全日本選手権連盟大会及びインターミディエット全日本選手権連盟大会のみに適用し他の大会には適用しない

(14) 臨時代走

- ① 打者及び走者が事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。臨時代走は投手と捕手を除く打順の一番遠い選手とする。又、頭部に投球、送球を受けた場合は必ず臨時代走を出す
- ② 攻撃が終わっても前記の選手が出場できない場合は選手交代となる

(15) 監督、コーチ、選手の退場

- ① 自軍のベンチ又は応援席から、相手選手又は審判員に対し暴力行為や暴言を吐いた場合
- ② 審判員の判定や指示に従わなかった場合

(16) 素振り

危険防止のため素振りを禁止する。但し、フェンス等で囲われ十分安全が確保される場合などは素振りゾーンを設けることが出来る。監督、コーチは選手が違反しないよう細心の注意を払う

(17) 補則

- ① 試合開始、終了時の挨拶の時、監督は選手と一緒に整列しコーチはベンチ前に整列する。この時ジャンパーやウインドブレーカーは脱ぐ
- ② 捕手又は投手からのハーフスイングのリクエストを受け付ける
- ③ 全選手がファールラインを越えた時にアピール権は消滅する
- ④ 飛球をデッドライン、外野ネット内で捕球したと審判員が判定した場合、捕球後、場外に出てもアウトである。選手が倒れこんだ場合はボールデッドになり走者に1個の進塁を認める。倒れなかった場合はインプレーである
- ⑤ ホームランを打った選手を称える時は派手な出迎えは慎む
- ⑥ 携帯電話等外部と通信できる機器をベンチに持ち込んではいならない
- ⑦ 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付き、捕手からのサインを受ける
- ⑧ 捕手はボールを受けたら速やかに返球して投手にサインを送る
- ⑨ 捕手は野手に声をかける時、ホームベースより前には出てはいならない
- ⑩ ボール回しは定位置で行い速やかに投手に返球する
- ⑪ 打者は打者席を外さずにサインを見る
- ⑫ サインを出す時はできるだけ短くする
- ⑬ 攻守交代は迅速に行う
- ⑭ 給水等、必要に応じて保護者がベンチ及びその周辺への立ち寄りを認める
- ⑮ マイナー大会では「振り逃げ」を適用しない
- ⑯ トーナメント大会で3位決定戦を行わない場合、優勝チームと準決勝で対戦したチームを第3位とする
- ⑰ 大会本部付近でのデータ収集、応援、撮影等は許可した区域以外は禁止する

8 全日本選手権東関東連盟大会規則

全日本選手権東関東連盟大会は、基本的にはV. 競技規則1～7に記した規則に準じて行われる

(1) 選手登録

9名以上14名以内。但し、リーグ内に登録有資格選手(リトル年齢11歳、12歳)が14名以上在籍する場合は上限である14名の登録を行う

- (2) 監督・コーチ
最大3名ベンチ入りできる。(但し、上位大会時においては選手が11名以下の場合には2名しかベンチに入れない)
- (3) 試合方式
6回戦とし敗者復活戦を採用する
- (4) 延長戦及びコールドゲーム
 - ①延長は1イニング行い8回からはタイブレークを採用する
 - ②コールドゲームは全試合、3回15点差、4回以降10点差を適用する
- (5) ベンチ入り全選手の試合出場義務規定
ベンチ入りした選手は以下の規定に従い当該試合に出場しなければならない
 - ①13名以上の選手が参加している時、全選手は少なくとも1打席を完了しなければならない
 - ②12名以下の場合、全選手は最低連続6アウトの守備と少なくとも1打席を完了しなければならない
 - ③全選手が再出場できる。又、再出場の回数に制限はない
 - ④再出場した選手は元の打順に入る
 - ⑤交代で初めて出場した選手は出場義務を完了するまで交代できない
 - ⑥退場させられた選手は再出場できない
 - ⑦負傷退場した選手は出場条件を満たさなくても良い
 - ⑧病気、負傷、退場等で9人の選手が揃えられなくなった場合は以前起用した選手を加えることができる。但し、その人選は相手チームの監督が行う。又、退場処分となった選手はこの対象にはならない
 - ⑨出場義務を果たしており打者の時に交代選手が出場した場合、実際に降板したのでなければ1度に限り投手として再出場できる
 - ⑩出場義務規定違反のアピールは試合終了後、相手監督及び競技部員ができる
 - ⑪出場義務規定に違反した場合、大会本部はそのリーグの監督を当該大会の出場停止処分とする尚、悪質と認められる場合は役員会で更なる処分を決定する
 - ⑫両リーグが違反した場合、両リーグの監督も⑪の処分を受ける
 - ⑬監督は出場義務規定を満たすことに全責任を持たなければならない。試合が何らかの理由で短縮されない限り、当既定の例外は認められない
- (6) 投手
 - ①降板した投手は、その試合では投手に戻れない
 - ②投球数を1試合85球まで
 - ③登板は1日に1試合
 - ④休息日については7の(4)①を参照
 - ⑤投手から捕手、捕手から投手への守備位置交代の制限は7の(4)⑥、⑦を参照
- (7) スペシャルピンチランナー
 - ①1イニングに1回、1試合に2回に限り使用できる。出場した選手は1試合に1回に限りスペシャルピンチランナーと交代できる
 - ②スペシャルピンチランナーになれる選手は、その時点で打順に入っていない選手である
 - ③スペシャルピンチランナーで塁上にいる時は代打になれない

9 ティーボール大会規則

ティーボール大会は以下の規則で行われる。(香取市長杯に関しては後述)なお、この規則に記載のない事項は前掲の競技規則に準ずる

- (1) 登録資格及び人数
 - ①登録資格・・・6歳～小学3年生以下
 - ②登録人数・・・9名～20名
- (2) 監督及びコーチ
 - ①成人の監督1名、コーチ5名以内(内1名はスコアラーを兼ねる)
- (3) 登録書の提出
 - ①所定の登録書を大会初日に大会本部に提出する

- (4) グラウンド
- ①ホームベースから外野フェンスまでは45メートル
 - ②ホームベースから7メートルにファールラインを入れる
 - ③ピッチャーサークルは半径1メートル
 - ④バッターサークルは半径3メートル
 - ⑤バッターボックスのラインを入れる
 - ⑥バッターボックスはホームベースの半分(21.6CM)捕手よりに移動する
- (5) 用具
- ①1塁はダブルベースを使用する
 - ②試合球は当連盟指定球(ZETT社製)を使用する
 - ③バットはリトルリーグ、ティーボール用公認バット及び学童軟式バット(SGマークシール貼付のもの)
- (6) 服装
- ①監督、コーチ、選手ともスポーティーな服装なら制限はない(選手は背番号をつける)
 - ②監督、コーチ、選手は野球帽子を着用する
 - ③捕手はヘルメットを着用する
- (7) 試合の運営
- ①試合は6イニング又は制限時間45分とし45分を過ぎたら新しいイニングに入らない。トーナメント戦は6回又は制限時間経過後、同点の場合は以降の回からタイブレーク方式で行う。リーグ戦は6回又は制限時間経過後、同点の場合は引き分けとする
 - ②1イニング9人目の打者となった時、アウトカウントを2アウトとする
 - ③投手が投球動作に入ったら打撃姿勢(軸足等を動かす行為)を変えてならない
 - ④点差によるコールドゲームは採用しない
 - ⑤降雨等により試合続行が不可能となった場合、試合成立は3イニングとする
 - ⑥シートノックは5分間とする。但し、状況により、短縮、カットもあり得る
- (8) 競技規則
- ①攻撃は3アウト又は9人で交代し次の打撃は10人目から始まる。登録した選手は打順に従い全員打席に入らなければならない。最終登録選手の次は1番に戻る
 - ②守備は登録した選手のうち9名で行う。全員守備の義務はなく守備の交代も自由である
 - ③全試合で守備側の監督、コーチ2名まで外野グラウンドに入り守備の指示ができる
 - ④攻撃側の監督、コーチは1・3塁のコーチャーとなって打者、走者に指示できる
 - ⑤攻撃側の監督、コーチは球審の横に位置しティーバーの調整、ボールのセットをする(選手がセットしても良い)その時、打者に指示しても良い
 - ⑥球審は打ち終わったティーバー、バットを速やかに安全な場所に移動させる
 - ⑦タッチアップのアピールはタイム中でも受け付ける
 - ⑧走者は打者が打つまで離塁できない
 - ⑨攻守ともタイムの回数に制限はないが試合のスピードアップに留意する
 - ⑩ヘッドスライディングは禁止する。進塁、帰塁ともアウトでボールデッドとなる
 - ⑪プレーの開始
 - ・ 球審は守備側選手が定位置に付いたことを確認し「プレー」をコールする
 - ・ コールと同時に投手は投球動作を開始する
 - ・ 打者は投球動作終了後にティーバー上のボールを打つ
 - ・ 打者が投球動作終了後に素振りを行った場合はタイムをかけやり直す
 - ・ プレー宣告後、打撃姿勢(軸足を動かす)を変えて打った場合は打ち直しとなる
 - ⑫プレーの停止

ボールが内野にいる野手に戻りプレーが1段落したらタイムをかけボールデッドとする
中継プレー中はタイムをかけずに続けさせる。内野ゾーンの打球によるプレーは、プレーが継続しているか否かを見極めてタイムをかけ概ね2/3以上進んでいたら進塁させそれ以下の場合は元の塁に戻す
 - ⑬打球の判定

- ・ 打球が7メートルサークルを超えればフェア、越えなければファールボールとなる
- ・ 打者がフルスイングしなかった場合は打ち直しとなる

⑭審判員は4人制とする

10 インターメディアエット大会規則

(1) 年齢

- ①全日本選手権東関東連盟大会・・・11歳～13歳(9月以降生まれ)
- ②秋季大会・・・・・・・・小5、6年、中1(9月以降生まれ)

(2) 登録人数

- ①全日本選手権東関東連盟大会・・・9名～14名
- ②秋季大会・・・・・・・・9名～20名

(3) 登録

- ①メジャー部門トーナメントチームとの重複登録はできない
*トーナメントチームとはメジャー全日本選手権大会(予選を含む)の登録チームを指す。監督
コーチもジャー部門との兼任はできない

(4) 監督・コーチ

最大3名ベンチ入りできる。(但し、上位大会においては選手が11名以下の場合には2名しかベンチに入れない)

(5) バンドリ

国際登録時に提出したバンドリを順守しなければならない

(6) 連合チーム

選手の数が少ない場合はこの部門に登録している近隣3リーグ以内と連合チームを作ることができる

(7) バット

- ①全日本選手権連盟大会
新規格(USABat規格に合致したもの)のバット、又は長さ34インチ以下で直径2-5/8インチ以下のバットで複合金属材料【COMPOSITE MATERIAL】を使用している場合はBBCOR規格を満たすシールが貼付されているもの。国内市販の中学硬式用バットは使用できない
- ②秋季大会

- ・ 同上

(8) シューズ

- ①金具の付いたスパイク
 - ・ 全日本選手権連盟大会・・・使用可
 - ・ 秋季大会・・・・・・・・使用不可

(9) 試合出場義務

- ①全日本選手権連盟大会・・・全試合適用
- ②秋季大会・・・・・・・・適用しない

(10) 試合

- ①試合は7イニングとし敗者復活戦を採用する
- ②延長戦
前記のとおり(V. の7の(5)の①参照)
- ③タイブレーク
前記のとおり(V. の7の(5)の②参照)

(11) 試合時間

- ①全日本選手権連盟大会・・・制限なし

②秋季大会……………2時間を過ぎたら新しいイニングに入らない

(12) コールドゲーム

①全試合に4回15点差、5回以降10点差を適用する

(13) 成立試合

①5回が終了し後攻チームが勝っている場合、又は5回が終了した時点で後攻チームの4回までの得点が先攻チームを上回っている場合

(14) サスペンデッドゲーム

1回が終了した後、降雨・日没等で試合続行が不可能となった場合。尚、1回が終了する前に続行不可能となった場合はノーゲームとなる

(15) 投手

①投球数 11歳、12歳/85球 13歳/95球

②登板

- ・ 全日本選手権連盟大会は1試合/1日
- ・ 秋季大会は規定に従って2試合/1日

③守備位置の変更

- ・ 他のポジションに移っても1度に限り投手に戻ることができる

VI. 附則

- (1) 平成25年2月24日、旧大会綱領及び大会規則を廃止し、新たにこの大会綱領を作成し平成25年春季大会から適用する。尚、必要に応じてその都度改正を行う

連盟大会に出場できるリーグ、チーム、選手

大会名		リーグ・チーム	リトル年齢・学年・投球数	登録人数
春季大会	メジャー	・全リーグ ・リーグ第2チーム	11歳・12歳・13歳 (4～8月生まれの13歳は出場可)	9名～20名
	マイナー	・連合チーム	小3・4・5年生 5年生の投球数 A:4月2日～8月31日生・・・85球 B:9月1日～4月1日生・・・75球	
		・全リーグ	11歳・12歳	9名～14名

夏季大会	全日本	但し、リーグ第2チーム 連合チームは出場 できない	*4～8月生まれの13歳選手 は出場できない	*有資格選手が14名以上在籍する 場合は上限である14名を登録しな ければならない
	東日本	・全日本優勝リーグを 除く全リーグ ・リーグ第2チーム ・連合チーム	11歳・12歳・13歳 (4～8月生まれの13歳は出場可)	9名～20名
	理事長旗	・MLBカップ連盟代表 及び関東代表選考会 出場リーグを除く 全リーグ ・リーグ第2チーム ・連合チーム	小3・4・5年生 5年生の投球数 A:4月2日～8月31日生・・・85球 B:9月1日～4月1日生・・・75球 3・4年生の投球数・・・75球	9名～20名
	MLBカップ 代表 選考 大会	・全リーグ ・リーグ第2チーム ・連合チーム	小4・5年生 5年生の投球数 A:4月2日～8月31日生・・・85球 B:9月1日～4月1日生・・・75球	9名～20名
秋季大会	メジャー	・全リーグ ・リーグ第2チーム ・連合チーム	10歳・11歳 5年生の投球数 A:4月2日～8月31日生・・・85球 B:9月1日～4月1日生・・・75球	9名～20名
	マイナー		小3・4年生	
全国選抜		・全リーグ ・リーグ第2チーム ・連合チーム	小5・6年生 6年生の投球数・・・85球 5年生の投球数 A:4月2日～8月31日生・・・85球 B:9月1日～4月1日生・・・75球 4年生の投球数・・・75球	9名～20名
ティーボール		・全リーグ ・リーグ第2チーム ・連合チーム	牛久市長杯・・・年長～小3 香取市長杯・・・年長～小2	9名～20名
インターミディエット	全日本	・メジャー全日本 選手権連盟大会に 出場しないリーグ ・連合チーム	11歳～13歳 (13歳は9月以降生まれ) *メジャーとの重複登録は 認めない	9名～14名 *有資格選手が14名以上在籍する 場合は上限である14名を登録しな ければならない
	秋季大会	・全リーグ ・連合チーム	小5・6年、中1(9月以降生まれ) 5年生の投球数 A:4月2日～8月31日生・・・85球 B:9月1日～4月1日生・・・75球	9名～20名

リーグ第1、第2、連合チームの編成

連盟大会(全日本選手権連盟大会を除く)には、リーグ第1、第2、連合チームを編成し出場できる

編成要件は下記表のとおり

	支配下選手	チーム編成
1	18名以上のリーグ	*リーグ第1、第2チーム 1チームで9名以上で第1、第2チームを編成できる
2	9名に満たないリーグで連盟内に連合チーム を組む相手がある場合	*連合チーム 連盟内で支配下選手が9名に満たないリーグ同志(近隣 3リーグまで)で連合チームを編成することができる。この場合 ユニフォームは各リーグのもので良いが背番号は1番からの

		連番とする。代表権を得れば全日本選手権大会以外の上位大会に出場できる
3	9名に満たないリーグで連盟内に連合チームを組む相手がない場合	<p>*不足選手が数名の場合 連盟内の1リーグから選手を借りチーム編成ができる ユニフォーム、背番号は上記2に同じ。この場合、連合チームとみなし代表権を得れば全日本選手権大会以外の上位大会に出場できる。又、貸し出したリーグが出場権を得た場合、貸し出した選手を加えてチームを再編し上位大会に出場できる</p> <p>*不足選手が多い場合 連盟内で単独でチーム編成ができるリーグへ選手を派遣できる。この場合、受け入れリーグの単独チームとみなし例外として受け入れた選手も全日本選手権大会以外の上位大会に出場できる。尚、ユニフォーム、背番号は受け入れリーグのものに統一する</p>

*リーグ第1、又は第2チームが上位大会の出場権を得た場合、2チームを1チームに再編し上位大会に出場できる。
2チームがそれぞれの大会で上位大会の出場権を得た場合はそれぞれのチームを連盟代表とするが選手の入替えは認めない

*ティール大会における連合チームの編成に制限はない

大会組織図

大会会長	理事長
大会副会長	副理事長
大会運営委員長	事務局長
大会運営副委員長	競技部長・審判部長

大会実行委員長(主管ブロック長)	競技部	審判部	運営委員 (連盟役員)
大会実行副委員長(主管副ブロック長 競技部長、審判部長)			
実行委員(主管ブロックリーグ事務局長)			

競技、審判部員)				
<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド設営 ・会計 ・案内 ・交通整理 ・接待 ・救護 ・清掃 ・連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ・組合せ抽選 ・試合の準備 ・選手登録書 ・監督代行届 ・選手欠席届 ・メンバーチェック ・試合記録表 ・試合球準備・回収 ・時間管理 	試合進行	審判団編成	<ul style="list-style-type: none"> ・来賓接待 ・受付 ・会計 ・表彰 ・放送 ・プログラム ・スポンサー ・式典 ・報道・写真 ・連絡
		<ul style="list-style-type: none"> ・メンバー表交換 ・攻守決定 ・シートノック ・投球数管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・責任審判任命 ・審判員配置 	
		試合結果	試合準備・進行	
		<ul style="list-style-type: none"> ・記録書回収 ・交付・保管 ・連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具チェック ・試合記録 	
			競技部補佐	
	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーチェック ・攻守決定 ・連絡 			

投手規則の解説

- 1 投手の投球数と休息日について、休息日が必要となる投球数は「その投手が対峙した最終打者へ投じた1球目の投球が基準となる」例えば累積投球数が18球となっている段階で次打者に対峙し、その打者に対して6球を投じて合計投球数が24球となった場合
 - 1) その打者が出塁する
 - 2) その打者が退く
 - 3) 次の投手と交代する
 - 4) 第3アウトが成立し、そのイニングが終了するのいずれかのケースで降板すれば、その投手が最終打者と対峙した際の1球目が18球だったため、記録上はその投手の投球数は「20球以内」とカウントされ、その投手には休息日は必要ないこととなります。これは、休息日が変わる35球、50球、65球のそれぞれの上限投球数でも同様の対応です。

- 2 投手が投球数20球以内の場合、翌日の第1試合に登板できます。又、全国選抜大会等の日本国ローカルルールでは当日の次の試合にも登板できます。

この際の投球制限について

- ・翌日/第1試合の場合:投球数はリセットされ、年齢別投球数まで投球できる
- ・当日/次の試合の場合:年齢別投球数から実投球数を減じる。(2016年度より適用)

例(上記1):最終打者への1球目が累積投球数18球で合計投球数が24球で降板した時は実投球数24球を減じる。(11・12歳の場合は85球-24球=61球)

尚、当日2試合に連続登板して、いずれも20球以内の場合は、累積投球数40球とはカウントしませんので休息日は必要ありませんし、翌日の投球数はリセットされます。

- 3 試合で41球以上の投球を行った投手は、その日は捕手を務めてならない。

この41球は実投球数であり20球以内で連続登板した合計投球数ではなく1試合の投球数で判断します。

注:投手が打者に対している間に投球数が40球に到達した場合、投手は以下のいずれかに至るまで投げ続けることができ、その日であってもその後捕手としてプレーできる資格を有する。

- (1) その打者が出塁する
- (2) その打者がアウトになる
- (3) 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する。

投手は次の打者へ投球する前に降板するか、試合が終了すれば、その投手はその後捕手としてプレーすることができます。試合で41球以上投球し、**投球制限の例外に含まれない**投手は、その日は捕手を務めてはならない。

- 4 試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。

(注) 4イニングはアウト数(12)ではなく守備に就いたイニング数である

この4イニングは1試合での数であり2試合行った場合は合計のイニングではなく、それぞれの試合でのイニング数をカウントします。

捕手を3イニング(以下も含む)務めた選手が投手となり、同日21球以上投球した場合、その選手は再度捕手を務めてはならない。

例外:投手が打者と対戦している時に投球制限数の20球に到達した場合、以下の条件で投手は投球を続け、その後捕手への交代が可能である。

- (1) その打者が出塁する。
- (2) その打者がアウトになる。
- (3) 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する。

(投手になれる例)

第1試合で3イニング捕手を務め外野手に変更した選手が第2試合でも捕手を務めていたが3イニング以内であれば投手を務めることができる。

※注意:当日の連続登板に関わる個所は全日本選手権連盟大会及び本大会には適用されません。

ティーボール香取市長杯特別ルール

- 1 チーム編成

- (1) 女性保護者を3名まで補充してチームを構成させても良い
- (2) ティーボール体験者の試合起用をリーグ責任で認める

- 2 守備

- (1) 女性保護者の守備位置の指定は定めない
- (2) 守備要員は小学生を基本とするが、監督責任で年長児も認める

- 3 打撃

- (1) 保護者の打順は最後尾とする

- 4 背番号

- (1) 選手は連番で背番号を付けるが打順と合致していなくとも良い(ビブスも可とする)
- (2) 女性保護者は背番号を付けなくとも良い

5 試合時間

(1) 試合時間は45分とし45分を過ぎたら新しいイニングに入らない(4関東規則により)

6 女性保護者の選手補助者の配置

(1) 女性保護者を選手補助者としてベンチ付近に配置させ選手の健康管理の補助をさせる

7 保険加入について

(1) 試合に出場する女性保護者とティーボール体験者は保険加入して選手登録をする

